

Technical information

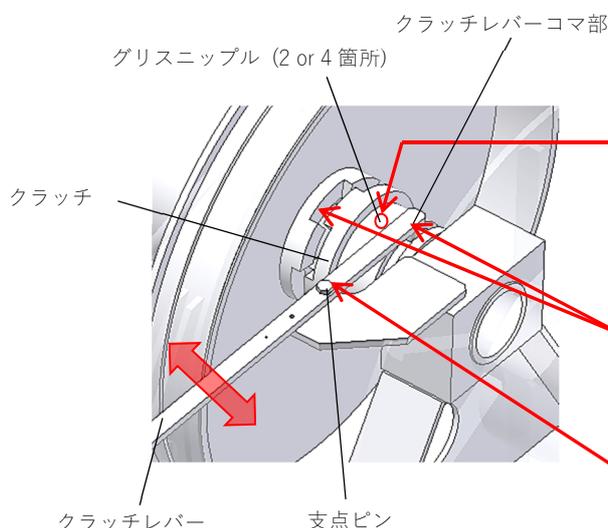
クラッチのメンテナンスについて

クラッチの摺動部には毎週及び使用前（後）にグリスアップを実施してください。

（使用グリス：JIS K 2220 集中給油用グリス 4 種 2 号相当品 ※ウインチによってはモリブデングリスを指定している場合があります）

グリスが不足した場合、軸とクラッチの摺動部に浸入する海水によって錆が発生しクラッチが固着します。

- ・クラッチに設置している全てのグリスニップルからグリスを給脂し、軸とクラッチの摺動面にグリスがなじむまでクラッチを摺動させてください。
- ・グリスが馴染んだ後に、軸とクラッチの隙間から新しいグリスが出てくるまで再度グリスを充填してください。
- ・クラッチ爪部及びクラッチ溝部、クラッチレバーコマ部（先端円柱部）にもグリスを塗布し、支点ピンやその他リンク部にもグリスを給脂してください。



クラッチに設置している全てのグリスニップルからグリスを給脂し、軸とクラッチの摺動面にグリスがなじむまでクラッチを摺動させてください。
グリスがなじんだ後に、軸とクラッチの隙間から新しいグリスが出てくるまで再度グリスを充填してください。

クラッチ爪部及びクラッチ溝部、クラッチレバーコマ部（先端円柱部）にグリスを塗布してください。

支点ピンやその他リンク部にグリスを給脂してください。

グリスが不足した場合、海水が軸とクラッチの摺動部に浸入することで錆が発生し、クラッチが固着します。

- ・機器使用前にクラッチの外観点検を実施し、クラックや爪部の破損・変形がないことを確認してください。爪の噛み合いが浅い場合や想定外の大きな外力がクラッチに繰り返し掛かった場合、クラッチ破損の原因となります。
- ・クラッチ爪部にテーパー状の変形が生じた場合はウインチの使用中にクラッチが抜ける可能性があります。ストップピンを入れずに使用するとクラッチに掛かる脱方向のスラスト力によって爪の噛み合いが浅くなり、噛み合い部に変形が生じます。使用時は必ずストップピンを入れて使用してください。

クラッチに破損や著しい変形がある場合はクラッチの交換が必要です。